

非常持ち出し品の例

リュックサックなど
両手の使えるものに入れておく



- | | |
|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 非常食 | <input type="checkbox"/> ポリ袋 |
| <input type="checkbox"/> 飲料水 | <input type="checkbox"/> 下着 |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> トイレトペーパー |
| <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ | <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ |
| <input type="checkbox"/> 万能ナイフ | <input type="checkbox"/> 現金(公衆電話用の10円玉も) |
| <input type="checkbox"/> 手袋 | <input type="checkbox"/> 布製ガムテープ |
| <input type="checkbox"/> レジャーシート | <input type="checkbox"/> 油性マジック |
| <input type="checkbox"/> アルミ製保温シート | <input type="checkbox"/> 筆記用具 |
| <input type="checkbox"/> 非常用トイレ袋 | <input type="checkbox"/> 予備電池(モバイルバッテリーなど) |
| <input type="checkbox"/> タオル | <input type="checkbox"/> 口腔ケア用品(液体歯磨きなど) |

救急袋

(以下のものを入れておく)

- ☐ とげ抜き
- ☐ 消毒液
- ☐ ガーゼ(滅菌)
- ☐ ばんそうこう
- ☐ 包帯
- ☐ マスク
- ☐ 常備薬・持病薬など

家族の状況に応じたものを追加

女性は生理用品、高齢者は大人用紙おむつ、赤ちゃんは粉ミルク・哺乳びん・おむつなど



季節に応じて入れ替え

夏場は飲料水や着替えを多めに、冬場は防寒着を追加するなど



感染症が流行しているとき

マスクや消毒液を多めに準備したり、体温計やビニール手袋を追加するなど



「非常用トイレ袋」の準備を忘れずに

大きな災害がおこると、しばらくトイレは使えません。

地震では・・・水道は止まる。

水道が復旧しても配水管が壊れていないかどうか分からない。

水害では・・・下水管に雨水があふれて、トイレを流すどころか逆流してくる。



凝固剤で排泄物をゼリー状にし、後日ごみ回収に出せるようにする袋です。1人1日5〜7枚で計算して3日分程度を備蓄しておきましょう。



災害情報の調べかた

おおさか防災ネット

府内に発表される避難指示など幅広い防災情報を提供します。



気象庁

(キキクル)

雨によって引き起こされる災害発生の危険度が一目でわかります。



大阪防災アプリ

ハザードマップや避難所情報の確認、各種災害情報の通知設定などができます。



川の防災情報

(国土交通省)

河川水位の情報が地図やライブカメラで確認できます。



問合せ：市民協働課(防災・防犯) ☎06-6930-9045 FAX 050-3535-8685

保存版 \ 災害に備えましょう /

大きな地震や水害などの自然災害を防ぐことはできませんが、備えがしっかりできていれば被害を減らすことはできます。

平常時に何をしておけばいいか、災害が発生した時にどう対応すればいいか、普段から考えておきましょう。



地震に備える

平常時

- 最低3日間(できれば7日間)は自力で命をつなげるよう、飲料水や食料など備蓄品をそろえておく。
- 備蓄品のうち1日分はすぐに持ち出せるようリュックサックなどに入れておく。

地震発生時

- テーブルなどの下で足をしっかり持ち、揺れがおさまるのを待つ。
- 身を隠すものがない時は布団、枕、クッションなどで頭を守る。
- 屋外では、落下物やブロック塀に注意してカバンなどで頭を守る。



水害に備える

平常時

- 側溝や排水マスを掃除し、水の流れをスムーズにしておく。
- 雨どいが外れたり、土砂や落ち葉で詰まっていないか確認しておく。
- 自宅の上階で浸水避けることが可能かどうかハザードマップなどで確認しておく。

水害(台風)発生時

- 気象情報などをこまめに確認し、早めの安全確保を心掛ける。
- 台風の場合は雨戸やカーテンをしっかり閉めて窓際には近づかない。
- 停電に備えて懐中電灯や電池式ラジオを持っておく。
- トイレが流せなくなるので非常用トイレ袋を数枚準備しておく。



※ハザードマップは区役所で配布しているほか「大阪防災アプリ」でも確認できます。

在宅避難を考えよう

災害が起きたからといって必ず避難所に行かなければならないわけではありません。

避難所には必要最低限の備蓄品しかありません。また狭い空間で多くの人が共同生活をしなければならないため、多くのストレスにさらされます。

在宅避難のメリット

- ・自宅なので落ち着いて過ごせる
- ・他人の目や音が気にならない
- ・感染症のリスクを避けられる

家が無事で安全が確保できるなら、自宅や知人宅で避難生活ができるよう備えておくことも考えておきましょう。

水害警戒レベル表

警戒レベル	避難情報等
5 (大阪府が発令) ※	緊急安全確保 命の危険 直ちに安全確保
警戒レベル4までに必ず避難開始!	
4 (大阪府が発令) ※	全員避難 速やかに安全な場所に避難
3 (大阪府が発令) ※	高齢者や障がいのある人等避難 避難に時間を要する人は避難
2 (気象庁が発表)	洪水注意報・大雨注意報等 避難行動を確認
1 (気象庁が発令)	早期注意情報 気象情報に注意

※警戒レベルは大阪府が発令したものを確認する。